
思い出、忘れない

月守 空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思い出、忘れない

【Nコード】

N1816D

【作者名】

月守 空

【あらすじ】

私「綾瀬美咲」はサッカーをやりつつ、一番の友達である「榎本湊」を観察していた。いきいきと走り回っている湊は何だかカッコよくて……

(前書き)

あらすじにも書きましたが「綾瀬」は名字です。ついでに湊は女の子です。

「私何やってんだろうな・・・」

私はため息混じりに呟いた。

そして、後ろに大きな口をあけてボールが来るのを待っているゴールを一瞥した。

人の名前を呼ぶ声や、シュートを外した仲間を慰める声が聞こえる。見てのとおり、今はサッカーをやっている。普段の私なら、きつと手を抜いていただろうか、三年生の12月。

一番重要な時期に手を抜いて成績を落とされたら堪らない。だから、半分本気、半分嫌々私はやっていた。

「綾瀬。左からボールきた。あゝ右からも」

叫ぶような、湊の声で私はハツと我に帰った。

そうだ。ボーっとしている場合ではない。

仮にも私はキーパーをやっている。一番、しっかりとボールを見ていないといけないのではないか。

「止めてー」

いつの間にか、ボールは目の前に来ていた。

「くっ・・・早いよ・・・」

悪態をつきつつ、私はボールを取る為、構える。真正面を飛んでくるボール。私は手で弾いてボールの軌道を変えた。ボールは弧を描き、あさつての方向にとんでいく。

「怖えーよ・・・てか、遠いよ・・・」

文句を言いつつ、遥彼方へと飛んでいったボールを取りに行く。足で操りつつ、私は一番近い味方を探す。十メートルくらい離れた所に手を振る短い髪が見える。湊だ。残念ながらどんな表情をしているのかは全く持って解らない。それでも、湊に変わりはないのでボールを渡し、急いでゴール前へと戻った。

もう一つのは・・・と見ると、既に味方がゴールへと持って行って

いた。

私は、恐ろしく目が悪い。多分、両目の視力を合わせても0.3くらいしかない。当たり前前の事だが、普段は眼鏡をかけている。でも今は取っている。何故かってそれは仲間の皆に

「危ないから、眼鏡は取っておいたほうがいいよ」
なんて言われてしまった。

「見えなくて困るんだけど・・・」

外しながら文句を言う私に先程、叫んだ湊が

「俺がボール来たたら教えてやるし、コツチでも守ってやるから、綾瀬は心配すんな」

ぶつきらぼうに言ってくれた。体育得意な湊だから・・・と言うのもあるし、湊が何か少し苛ついていているようにも見えた。これ以上文句言ったら何されるか解ったものじゃない。

だから、文句言うのをやめて試合開始当初から、全体の様子を見つつ湊の姿を見ている。

湊は本当は守備なのだが、今は敵の陣地に突っ込んでいく。そしてシュート・・・したらしい。周りの様子からしてどうも入ったらしい。

「凄いな。湊」

「そうか？そうでもないんだけどなあ・・・」

何時の間にか湊は戻ってきていた。

「なっ・・・早いな。戻ってくるの・・・」

「うん。だって攻撃疲れたし、綾瀬。見えてないだろ？だから解説に来た」

「・・・にしたって早かないか？」

「早く守備の方に来て、休んで体力回復させたかったから。それより、解説すると・・・」

湊は現状を淡々と話し、再び攻撃の方へと走っていった。

私は、それを嬉しいようなくすぐりたいような気持ちで見っていた。

てつきり「俺がボールきたら教えてやるし、コツチでも守ってやる

から、綾瀬は心配すんな」というのを律儀に守っているとは……
単純というか何と言うか……湊らしかった。

「湊……」

呆れたように笑いつつ、私は湊の姿を追った。本当にいきいきして
いて、何ていうかカツコよかった。表情が見えないのが残念だけど
……。

私はこの時こう思った。

「湊は男の子だったら、結構もてたんだろうな」と。言葉遣いなん
かも男って感じだし、性格もどちらかっていうと男の子っぽいし、
髪も短いし、名前も「湊」なんて男の子っぽいし……。

しかも、何時の日かセーラー服着ていたのに、男子に「あっ……
お前か。後ろからみたら男かと思った」なんて言われている。

女の子にしておくのは勿体無いな。男の子だったら、彼氏にしたか
つたな……。

「勿体無いなあ……」

「何が？何が勿体無いって？」

ハッと我に返るとそこには湊がいた。

まさか、先程の事を本人に言うわけにはいかない。まあ、言ったと
ころで湊が気にするとは思わない……。けど……。私は……。

「秘密だよーだ。」

教えなかった。だって……

「教えてくれたっていいじゃないか」

とむくれる湊が何だか可愛くて、ぎゅーってしてあげたくなるから
ね。

……なんてそれこそ本人に言ったら引かれるか、殴られるかされ
てしまいそうだから我慢して、騒ぐ湊をからかいながら私は教室へ
戻っていった。

本当はこう言わないとだめだったのかもしれない。

「律儀に約束守ってくれてありがとう」

この感情は果たして何なのだろうか。

ただ単に、私が人をからかって遊ぶのが好きで、その矛先が一番近くにあった湊に向けてしまっただけなのだろうか……。

なんなのか解らない。

何時か、解るのかな？

でも、たとえ解らなくても……解っても……今、湊と笑って話せている今を忘れたくはない。

ずっと、ずっと、覚えておきたい……。

だから、これからもよろしくね。湊。

(後書き)

半分実話で半分は作り話です。湊モデルの子は本当に男の子みたいな女の子ですし、美咲モデル・・・もとい作者は美咲みたいなこと思っていました・・・

要望あったら続編書きたいと思っているので、感想よろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1816d/>

思い出、忘れない

2011年1月24日12時59分発行